

## 研究開発で業界をリード

当社は創業以来、ガasket専門メーカーとして発展してきたが、それを力強く支えてきたバックボーンは、何といても研究開発に裏付けられた“技術力”である。

昭和三十二年（一九五七）、業界に先駆けて、千住工場の一角に、“ガasketに関する基礎研究室”を設けた。これが研究開発に当社が取り組むようになった第一歩である。

当初の研究室は、本来の研究開発よりも、日常の生産技術に関するものがほとんど、その意味では、外部に対してよりは、内部の生産面で大きな効果をあげた。

それが、昭和三十年（一九五五）の国鉄ディーゼル車両とのつながりから、ユーザーの技術的要望にこたえて、素材、設計など、本来の研究開発が始まり、三十年代後半からは、自動車メーカーへの直納が広がると共にしだいにエスカレートしていった。

これに対応して昭和四十七年（一九七二）十月、研究室を技術センターとし、日常の設計、試作を行う技術課と、将来の製品を開発する開発課を設けた。

かつて電力不足時代に自家発電用に使って用済みになっていたディーゼルエンジンを動かして、当社製品の耐久実験を行ったのが最初である。その後、各種エンジンを使用するようになり、同業もこの実験を行う様になったが、当時、当社千住工場のもものは、専門のエンジンメーカーに負けない日本一の設備であった。